

紛糾した平町會

反対破れて筋書きの通り

町長青沼氏當選

町長選舉を中心議題とし暗雲低迷危機を孕む平町會は昨日午後一時五十分出席議員廿六名に依つて開會、川崎、緑川兩議員から「町長選舉を先決として高級助役の推薦に移るのが當然の順序である」と爲す日程變更の動議は多數を以つて一蹴され更に川崎議員は

今回の町長改選にからむ高級助役の推舉は明治の

明朗性を没去し町民諸君に多大の疑惑を抱かしむる惶れなしとしない斯かる疑惑の焦點に井上茂作氏を陷入しむる事は

井上氏は満場一致でなくして居るから自分が此處は就任を承諾せずと言明に反対の意志を闡明する以上井上氏の助役は實現不能である故に町長は此の案を撤回すべきである

と力説、更に青沼氏の町長再選が井上氏の高級助役と交換條件と目される事實の経緯を縷々説いて是れは選

舉違反及び瀆職罪に觸る場合を懸念されると肉迫し飽迄高級助役推薦の撤回を要求したが青沼町長は「自分は交換條件として容認した覚えはない、井上氏が助役の好適任者であると確信する爲め今日の推薦に及んだものであるから絶對撤回しない」と

憤然叱吼し議論の應酬騒然と起り喧々囂々の間に助役糾の町會も漸く鳴りを鎮めて平靜に復し青沼鋒太郎氏が多數で當選した

上茂作氏が夫々當選、最後

の町長選舉に及んで混亂紛

糾原義雄氏、高級助役に井

満藏氏が昇格し副議長には

通り議長には副議長の野崎

邦子他(須磨海岸中継)

後八、二〇 ラヂオ聯曲

後九、三〇 時報

前六、三〇 基礎フランス

邦子他(須磨海岸中継)

後二、四〇 小學生尋四の

横濱市共進校兒童

後四、一〇 大元帥陛下札

幌得着裝御模様

後九、一五十六夜に砧を

吉住小桃次

後八、三〇 長唄「越後獅

子」吉住小桃次

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 國民歌謡「日

本よい」國松島詩子 林

後二、〇〇 小學生尋四の

横濱港 東京白金校

後〇、〇五 二絃琴 藤舍

蘆船他

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 英語講座 岡

後六、二五 中秋明月の夕

短歌會月に寄す「今井

邦子他(須磨海岸中継)

後八、二〇 ラヂオ聯曲

後九、三〇 時報

前六、三〇 基礎フランス

邦子他(須磨海岸中継)

後二、四〇 小學生尋四の

横濱市共進校兒童

後四、一〇 大元帥陛下札

幌得着裝御模様

後九、一五十六夜に砧を

吉住小桃次

後八、三〇 長唄「越後獅

子」吉住小桃次

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、一五十六夜に砧を

麗王宮跡中継

前七、〇一 朝の修養

後〇、三〇 童話劇「十五

夜の頃」東京放送童話劇

後六、二五 满洲より

講演「開東州施政卅周年記

念日」植田大將 御影池

長松英一他

後七、三〇 立體物語「特別大演習御統監の意義に就

て」西尾參謀次長

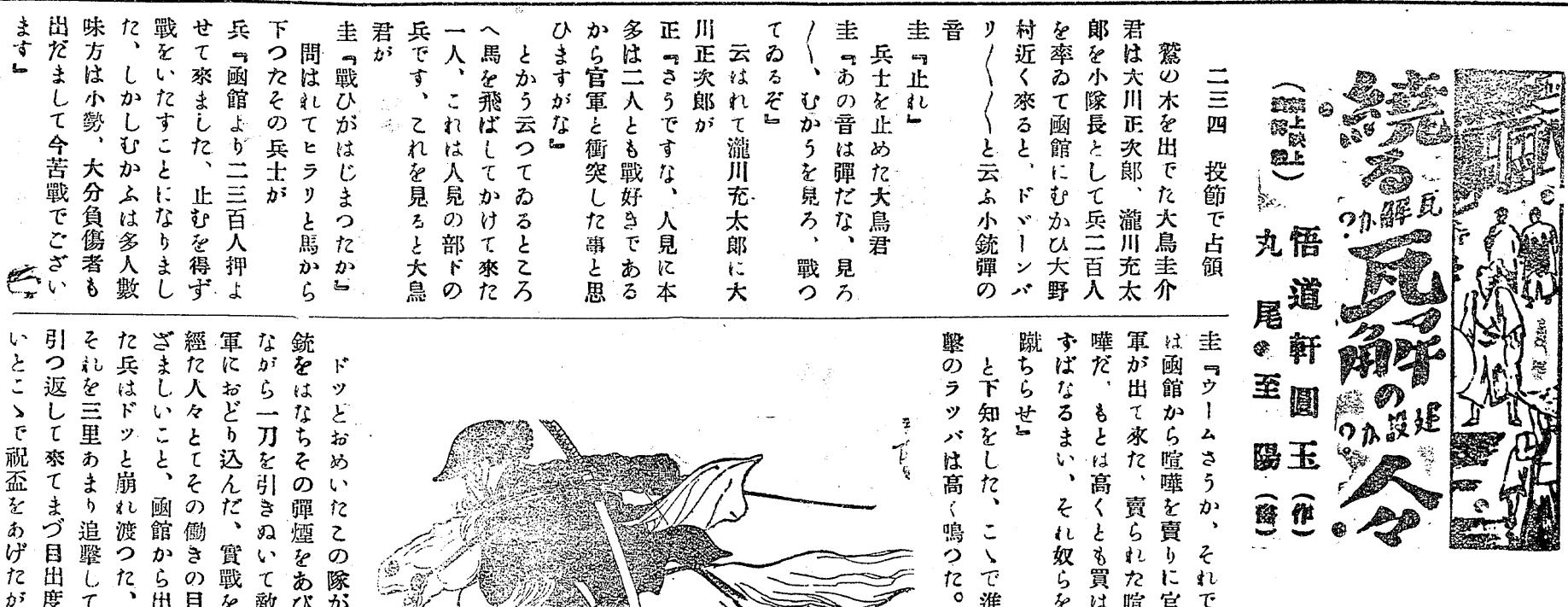
父さん一大友壯之介他

後八、三〇 歌謡曲豆千代

後九、一五十六夜に砧を

越後獅子

後九、



(上段) 悅道軒圓玉(作)
丸尾至陽(画)

二三四 投節で占領

鷲の木を出でた大島圭介
君は大川正次郎、瀧川充太
郎を小隊長として兵二百人
を率めて國館にむかひ大野
村近く來ると、ドーランバ
リと云ふ小銃弾の音

圭「止れ」

兵士を止めた大島君

圭「あの音は彈だな、見ろ
むかうを見ろ、戦つてゐるぞ」
云はれて瀧川充太郎に大
川正次郎が



とから云つてゐるところ
へ馬を飛ばしてかけて來た
一人、これは人見の部下の
兵です、これを見ると大島
君が

圭「戦ひがはじまつたか」
問はれてヒラリと馬から
下つたその兵士が

兵「國館より二三百人押よ
せて來ました、止むを得ず
戰をいたすことになりました
た、しかしむかふは多人數
味方は小勢、大分負傷者も
出だまして今苦戦でござい
ます」

とおめいたこの隊が
銃をはなちその彈煙をあび
ながら一刀を引きぬいて敵
軍におどり込んだ、實戦を
経た人々とてその働きの目
ざましいこと、國館から出
た兵はドツと崩れ渡つた、
それを三里あまり追撃して
引つ返して來てまづ目出度
いところで祝盃をあげたが
云ふところで士方の軍と合
して五稜廊を指して進ん
だ。

國館の知事清水谷侍従は

大野村に居つた脱走兵を打

ち拂ふために兵を出したが

これが敗れたと聞いて國館

泊して居るフランスの商船

に入つたが、脱走兵は大島

圭介と上方が指揮官となり

威風堂々押しよせると聞い

てこれは一大事と國館に碇

に入つたならば清水谷侍従を

花柳病科

きあげた。

かうなると五稜廊の守備

不公はなことであるがそい

た。

さてはじめての戦ひに敵

當時はこんなこともありま

した。

さてはじめての戦ひに敵

當時はこんなこともありま

した。

三年、五年と患ふ慢性胃腸

病が冷しくなつて俄に食べ過ぎてお腹を

害したらスグキ、メの早い

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害

害